

一
繁
画
譜

下

69

英一蝶畫譜下卷目錄

壽老人

夜討曾我

牧れ牛

橘中仙

林和靖

籬に萩

氣よど兎

川渡の湮植

田舎和尚

花表寄生

俵に白鼠

朝妻舟

節分

蘆にけし

地藏岡麿

朝鮮小童

狂ひ獅子

山伏鷹を祈

蓬萊



壽老人

畫以壽相鬚髮皆白
側画白鶴及白鹿

模尚俱與保

艱長齡矣



夜討方象



牛





橘中二老

巴園人種西大橘，隱
如二斗盎，剖之有二
叟相對，象戲一叟曰
橘中樂不減高山，但
不得深根固蒂耳。一
叟曰：僕飢矣，得龍眼
脯，食之，食訖以水噉
也。化二白龍而去。



林和靖



鐘危





いふ和尚

虎とくま

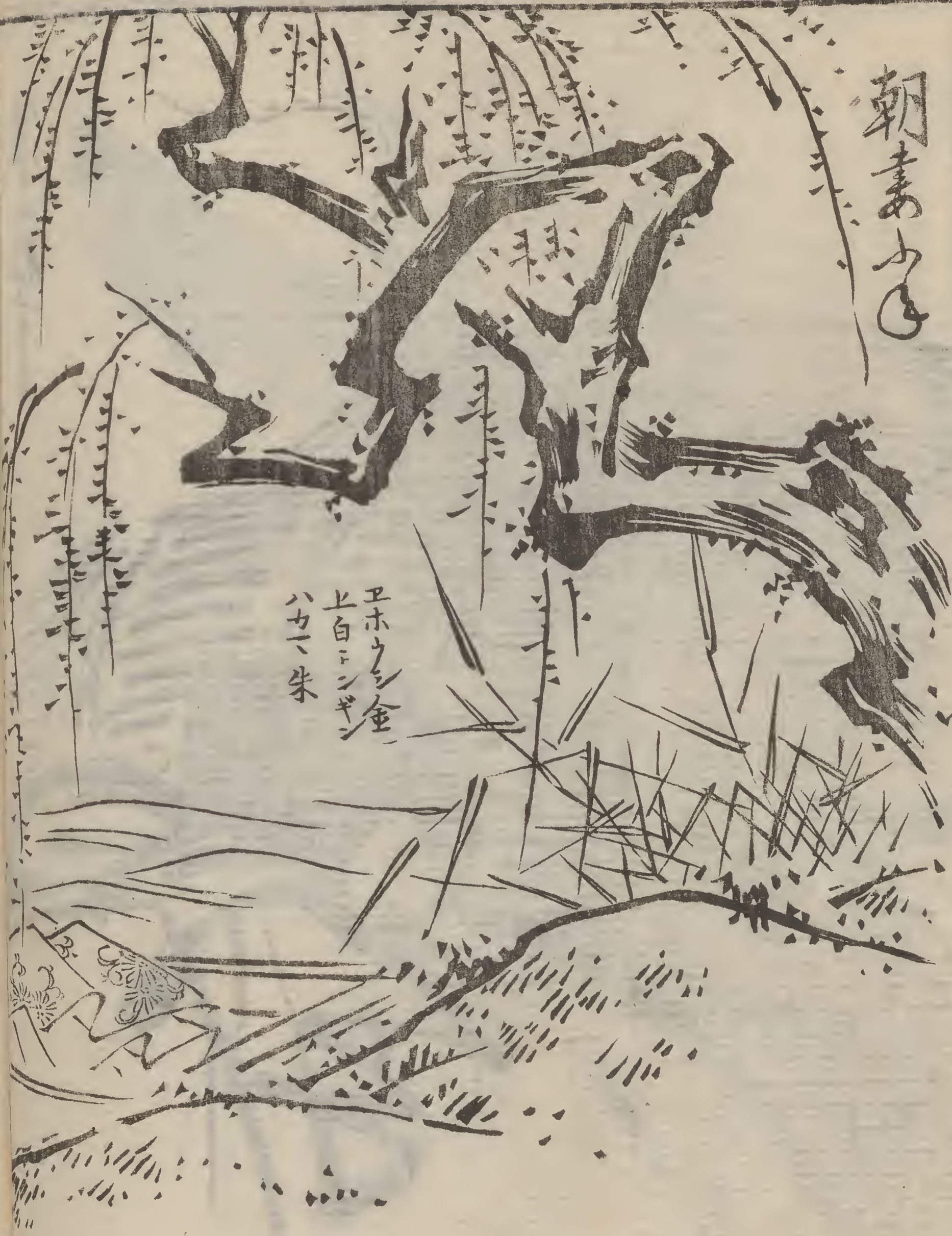


猿とねずみ



朝妻少子

五ホウシ金
上白ニシギ
ハカニ朱

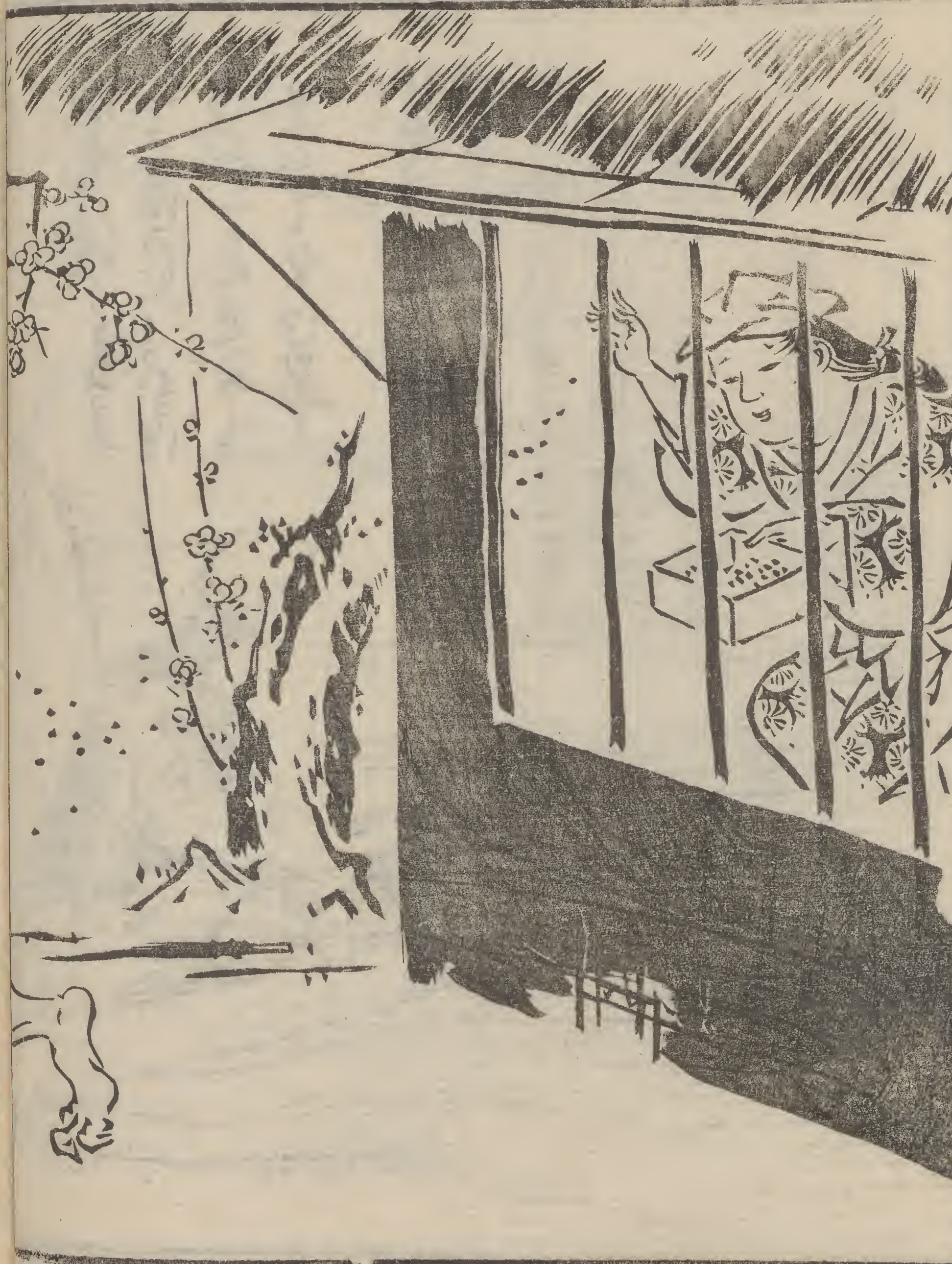


陸達乃彼を返さ
去兒諸のかつゝか
傳るる思是あり
見れそを江のや

いそゝあゝ波よりかてそ
かゝる浪朝妻舟の海や
あゝ海は目もたまはかり
ふりゝるを枕を河
傳ゝら成家やこの山

おれとてし
世の中





蕭山

後成々

河をせ

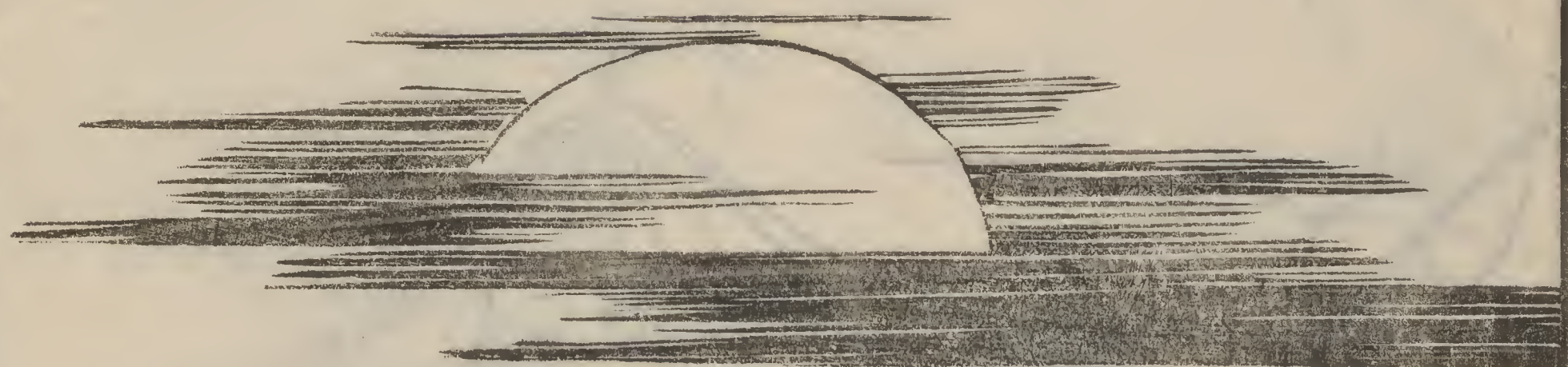
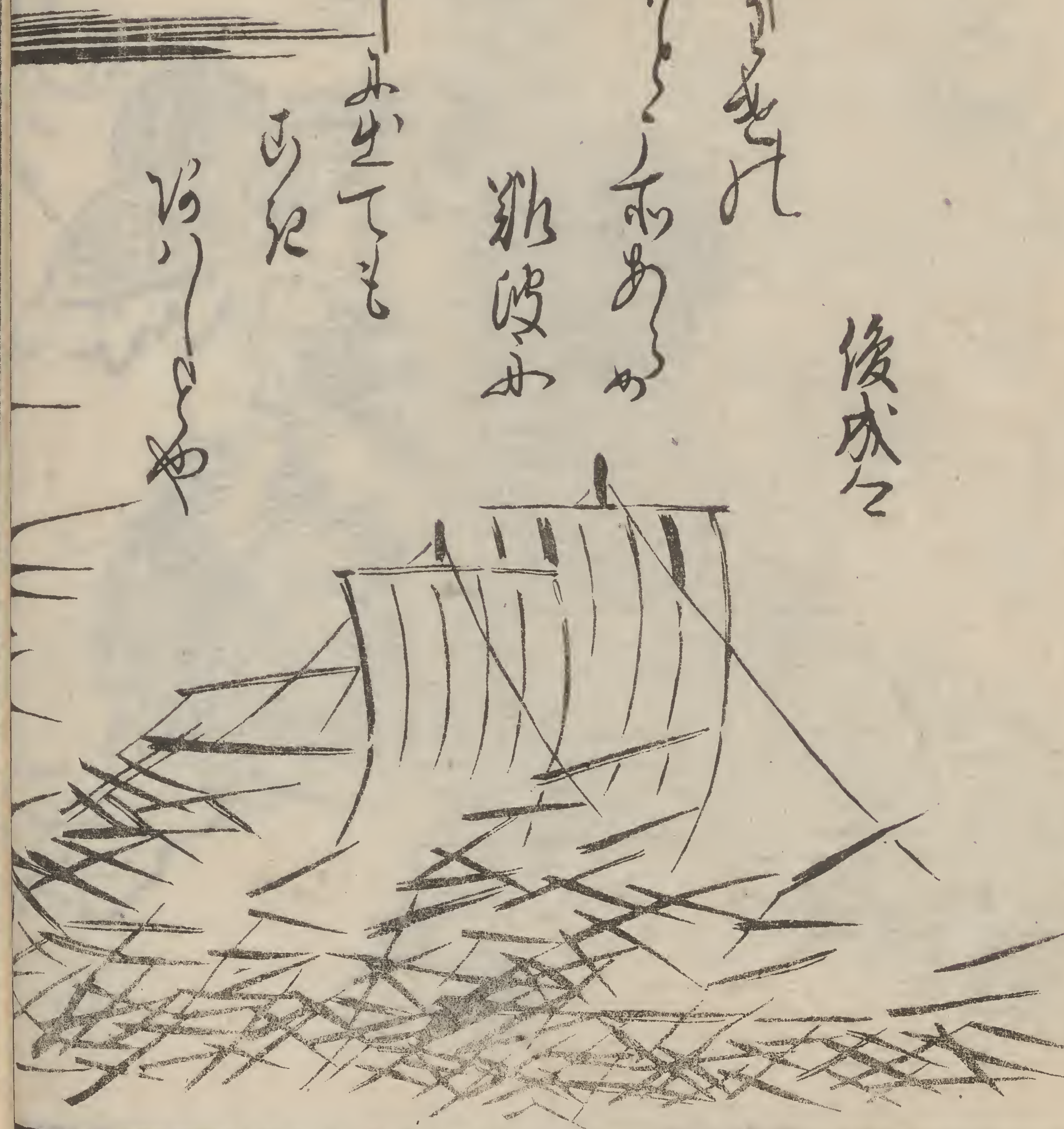
かゝるあゝ

波か

沖みても

あは

はる





地蔵
關十
川將



朝冠小童





子
神
子





龍山堂



跋

西泠印社

中此道

平山先生古蹟之記

事之終角の市一處を以て平山

先生の筆を以て平山先生の筆

いふ多阿ねおとく安く平山先生

筆馬ねすく阿は安く平山先生

先生の筆を以て平山先生の筆

先生の筆を以て平山先生の筆

先生の筆を以て平山先生の筆

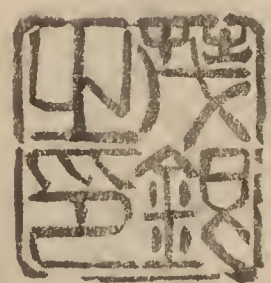
阿南歌中に出るが事は是なり
而も其の言はしむるや
常派に於ての侍成は
其の言はしむるや
かゝる人乃ち其の言は
あんな言はしむるや
玉澤乃ち其の言はしむる
心は清かりける言はしむる
亦乃ち其の言はしむる

か意もこの言はしむる
さる言はしむる
新波の言はしむる
成る言はしむる
満く言はしむる
さる言はしむる
濃あり言はしむる
凡く言はしむる
かゝる言はしむる

和が書城と印たる由志無き礼
石波の龍おもてあうと弟と思婦
能員

明治七年庚寅正月吉日

鈴鄰書自書



東都 鈴鄰松編集纂画本目錄

一 蝶畫譜

全部三冊

出來

一 同後編

全部三冊

出來

一 狂畫苑

全部三冊

出來

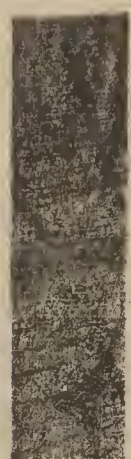
一 畫本拾遺考

全部六冊

近刻

一 草畫拔萃

全部五冊



明和七年庚寅歲正月吉日

東都書坊

西村宗七藏版

